

歌が生まれる

校歌制作レポート 第16回



イラスト：山崎奈緒

《UEDA=ドミレラ》が消える？

新校歌初稿では、「UEDA」を音名に置き換えた「ドミレラ」が、学びの海に遊ぶ命（ここに2回）・止まらぬ歩み・出会う/そ（れは）の3箇所、つまり歌のストーリーにおける「起」「転」「結」の要所に置かれています。



これらのうち①と②は全曲中の最低音ド（赤音符）を、③は最高音ミ（青音符）を含んでいますが、それは④の音域にきちんと収まっている。つまり、この「ドミレラ」は、この歌の主題であるとともに音域上のフレームを成し、配置そのものが設計の根幹になっています。「UEDA=ドミレラ」をこのような形で生かすことのできる調はイ長調と変イ長調しかなく、イ長調では最高音が④の上限となり、ちょっとツライ、という人が出る可能性を考えて変イ長調を選択しました。他の調にすると「UEDA=ドミレラ」が消滅してしまうのでそれはありえない、と思っていましたが、ピアノパートを書くうちに、だんだん雲行きが怪しくなってきたのです。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 9月14日 レポート

「楽譜の見易さ」と「歌いやすさ」の両立が U・E・D・A を危うくする

「響き合う夢」から「道標」のピアノパートは下の楽譜の通り。主調が変イ長調なので調号は♭4つですが、ここからは5度圏において2段階下がった変ト長調(11回レポート参照)なので、書いてはありませんが実際には調号の♭が2つ増えて6個になっている状態。基本的な音組成が♭だらけなので、ちょっと動かすと★のようなダブルフラットが生じ、また、赤枠のところで通常の調体系にはない変二短調が瞬間的に現れるので、ここを♯4つの調である嬰ハ短調の記譜に直すと、青枠のように♭だらけの楽譜の一部に突如♯だらけの2小節が挿入されることになる。音大生に見せる楽譜ならかまわないけれど、上田短大の学生がこれを弾く場合、こういった「見え方」はかなり抵抗感が大きく、譜読みの段階で拒絶反応が出そうです。主調をイ長調とすればこういった問題は起こらず、**UEDA=ドミレラ**も維持できますが、そうすると前述した「可唱音域ギリギリ」問題が生じます。さて、どうするか？

ひびきあうゆめはわかきせの

わらいつまずきまようひの みちしるべ

ひとつの解決策として、主調をト長調（調号で♯1つ）にしてしまう、という方法があります。すると「響き合う」

からの転調部分も♭1個のへ長調なので楽譜の見え方は格段にすっきりし、しかも歌は可唱音域に余裕で収まっていいコトづくめ。ただし、テーマ旋律はシレドソになってしまい、「テーマ旋律をドミレラとすることで、**UEDA**をちゃ〜んと歌に入れました」は成り立たなくなってしまう。

作者の拘りは受け取り手にとっては「どーでもよい」のが普通

前ページで長々と述べた、作曲上のアイデンティティと見易さ・歌いやすさの天秤問題は、「響き合う夢」で変ト長調に降りることを決めた時点ですでに気づいていて、主調をト長調にして楽譜上のややこしさの回避と適正音域の両立を図ることも同時に思いついていたのです。けれどもそうすると、

「UEDAじゃなくなっちゃう！」（👉「もののけ姫」の中のサンの叫び《猩猩じゃなくなっちゃう！》のトーンで）の声がきこえてきて、正直ずいぶん悩みましたが、結局、初稿のスコアを書き上げた9月4日に、変イ長調の楽譜の他にト長調の楽譜も添付して短大の音楽担当の先生に送り「場合によってはト長調での演奏もあり、にしましょう」と提案してあります。

校歌というものは「みんなが気持ちよく歌える」ことが何より大事なわけで、「気持ちいい」かどうかは「どこがどのように作られているか」を理解しているか否かには関係がなく、むしろ好悪の判断が情報や知識に引っ張られることの方がよくないと思います。今（9月13日午後3時）**Youtube**の試演動画（変イ長調での演奏）の閲覧数は370回ぐらいですが、ご覧になっている方々の中には「UEDA=ドミレラ」の一件を知らない、または興味がない、演奏を聴いてもわからない、な方が多くて当然。また、たとえば今、「気に入った」「気に入らない」の比率が50：50だったとして、仮にこの演奏がト長調であったとしても、その比率が変わることはないでしょう。

作者としては、説明して理解してもらった上で「なるほど、それなら」と納得されるよりも、単純に「あ、綺麗」「これ好き」と思ってもらう方がよっぽど嬉しいし、そうでなければさっさとやり直せばよいだけのこと。

おそらく今週末ぐらいには「これでいいか否か」の大勢が見えてくるのではないかと思います。もしダメとなっても、まだ締め切りには1ヶ月以上あり、そうなった場合の腹案

もすでに持っているので慌てなくても大丈夫。静かに座して待ちましょう。

…ということで、今回は可否のご報告になるかもしれません。

それではまた。

